

# 文学館だより

令和4年12月1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982-68-9511  
文責 日高

## 第12回 青の国若山牧水短歌大会入賞者 決まる

### 青の國大賞

しやうみやう

声明 のごとあぶらせみ鳴く真昼それでも人はマスクしてをり

応募総数4,294首の頂点に輝いた作品です。一般の部（題詠「声」）から選ばれました。  
各部門の最優秀賞は以下の通りです。

#### 【一般の部自由題】

千色の傘が雑踏にはあってあなたがひらく千一色目

#### 【一般の部題詠「声」】

湿り気を持つものとして声は武器わたしは敵のこゑが見えない

#### 【小学生の部】

川に行き飛びこもうとし川見たらふしきな魚いて飛びこまず

#### 【中学生の部】

あと一点震える右手に力入れ投げたボールは少しななめだ

#### 【高校生の部】

二年前祖母に言われたあの言葉忘れはしない「たくさん笑え」と

牧水母校、入賞しています。

小学生の部 優秀賞 日向市立坪谷小学校1年 黒田斗翔  
あたらしいうきわをもってかわへいくうきうきぶくぶくさかなをはっけん

小学生の部 佳作 日向市立坪谷小学校1年 平井杏門  
ごくごくとオレンジジュースおいしいなはじめて自分でかんをあけたよ

高校生の部 佳作 宮崎県立延岡高等学校1年 児玉莉乙  
「これにより文化祭全て終わります。」テスト勉強開始の合図

入賞者および入賞作品は当文学館ホームページに掲載していますのでご参照ください。

#### 【応募状況】

	小学生	中学生	高校生	一般自由	一般題詠	合計
第12回 令和4年	700首	967首	1,305首	669首	653首	4,294首
第11回 令和3年	930首	883首	2,230首	836首	731首	5,610首

#### 表彰式のお知らせ

日時：令和4年12月18日（日） 13:00～14:40（予定）  
場所：日向市中央公民館



表彰後は、一般の部自由題選者伊藤一彦先生、一般の部題詠、小・中・高校生の部選者大口玲子先生お二人の講評があります。どなたでもご来場いただけます。聞きに来られませんか。入場無料です。（ひとりごと・・・私もここ数年毎回投稿しています。箸にも棒にもかかりませんけど。今年も送られてきた短歌に刺激をたくさんいただきました。家族を亡くした歌、牧水を詠んだ歌など染み入る歌ばかりでした。）

# 「ヒュー！日向 マッチング短歌」公開中



日向市観光交流課が短歌をテーマに観光来訪キャンペーン『ヒュー！日向 マッチング短歌』を実施しています。

- 特設サイトにて短歌を募集
- 掲載された短歌に「返歌」が詠まればマッチング成立
- マッチした中から5組10名を牧水のふるさと日向へ招待
- 令和5年2月11日（土）、牧水生家にて『マッチング短歌交流会』開催 ここで初めてのご対面
- マッチしなかった方の中から抽選で1名には日向市への観光旅行「傷心旅行」がプレゼントされる
- 応募期間 12月27日（火）まで

テレビ番組でも取り上げられ、既にマッチング短歌もたくさん誕生しているようです。詳しくは日向市ホームページをご覧ください。

【問い合わせ先 日向市観光交流課 TEL 0982 - 66 - 1026】

## 伊藤一彦先生 秋の叙勲 旭日小綬章 おめでとうございます

我が文学館館長 伊藤一彦先生が旭日小綬章を受賞されました。  
伊藤先生、おめでとうございます。

周知の通り、伊藤先生は日本を代表する歌人であり、若山牧水研究の第一人者です。早稲田大学在学中のみ宮崎を離れますが、それ以前それ以降ずっと宮崎にお住まいです。「宮崎に先人がいた。歌を作るとき、背後靈のように牧水がいる。」と伊藤先生はおっしゃっています。元号こそ違えど年数が牧水と一緒にいることが何よりの先生のご自慢です。

	若山牧水	伊藤一彦
生まれ	明治18年	昭和18年
小学校入学	明治25年	昭和25年
早稲田大学入学	明治37年	昭和37年
結婚	明治45年	昭和45年

伊藤先生のことです。  
探しはまだまだ共通  
点は見つかるかもし  
れません。



牧水もわたしも孫も十八年生まれぞ明治、昭和、平成の

伊藤 一彦

## 牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

### わが側の鉄瓶の湯のわきたぎり零はくだる夜半の玻璃戸に

大正7年12月の作。牧水33歳。

大正8年「創作」1月号の編集は4時間ほどしか寝られぬ激務で、ようやく12月17日に終わった。そんな夜更けのガラスの水蒸気を見ての作である。

『今月で今年も暮れる。この期に際して、平常から創作社なり私なりに常に報酬の無い親切を尽して下さる人たちに謹んでお礼申し上ぐる。私は実に多くの人たちの親切を受け放しにして居る。その事は常に頭から離れぬのであるが、今のところどうとも致しかたがないのである。今暫く許して置いて頂き度い。そのうちには少しおとも、自分で自分の思ふ通りになる時期が来ると思ふ。お詫びと感謝を深く述べる。』と、牧水は「創作」1月号に書いている。

来年のカレンダー、喪中はがきが届く季節になりました。坪谷も神社例大祭を終え、年末を迎えます。今年もご来館いただきました皆さん、ご支援いただきました皆さん、ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

12月29日（木）～1月3日（火） 年末年始休業  
1月4日（水）～ 開館